



### 放射線治療の均てん化の活動を通して

自治医科大学放射線医学講座/中央放射線部 若月 優

皆さま。自治医科大学放射線科/中央放射線部で放射線治療の教授をしております若月と申します。今回は CRST のリレーエッセイとのことで、依頼され筆を執らせていただきます。

ところで皆さんは論文を書くことが好きでしょうか？自分の周りには三度の飯より論文を書くことが好きとしか思えない先生もいますが、正直なところ自分は苦手で、どちらかというと嫌いです。いつも論文を書いているときは修行と考えて耐えて書いております。ただ論文を書いているとうれしい瞬間がいくつもあります。Accept の知らせが来たとき、上司や同僚に褒められたとき、他の論文や教科書に引用されたとき、学会のシンポジウムなどで紹介されたときなど様々です。自分自身は、論文作成には二つの大事な意義があると考えております。一つは今まで自分を指導していただいた先輩・上司たちへの恩返し。もう一つは自分自身が行ってきたことの証明と考えております。今回は自分が行ってきた活動の中でアジア地域での放射線治療の均てん化に関する活動を少し紹介したいと思います。



自分は 2011 年からアジア原子力協力フォーラム (FNCA) の放射線治療プロジェクトに関わってきました。FNCA とは近隣アジア諸国との原子力分野の協力を効率的かつ効果的に推進する目的で日本が主導する原子力平和協力の枠組みで、放射線治療プロジェクトではアジア 11 か国が参加しているプロジェクトです。このプロジェクトでは、発展途上国を中心としたアジア諸国と共同での国際臨床試験などを行っております。国際臨床試験というと新しい治療法を開発するための先進的な研究とイメージされるかもしれませんが、FNCA の臨床試験は発展途上国で施行可能な標準となる治療方法を探索する研究であり、放射線治療の均てん化を目的としております。この活動の中で、発展途上国において放射線治療を均てん化していくことの難しさを経験してきております。欧米や日本で標準的な治療が標準治療とならない現実を目の当たりにしつつ、発展途上国の現状に合わせた臨床試験を組み、放射線治療を標準化・均てん化するという課題に取り組んできております。実際にこの FNCA で行った臨床試験の論文を作成した際に欧米の reviewer からは「現在の標準的な治療からは離れており、意味がない」といった査読を受けたこともあります。しかしながら、この医療環境の違いなどを Discussion することにより、意義のある論文が publish され、アジア地域など発展途上国における放射線治療の均てん化に貢献できていると考えております。自分は自治医大の卒業生が僻地医療などで直面する問題には詳しくありませんが、想像するに同様の状況に直面しているのではないかと思います。

ます。その中で、医療環境の不十分な状況に合わせた気付きや発見、そして医療の均てん化を行っている自治医大の卒業生の活動に大きく期待しております。医療環境に合わせた標準的な医療の確立は最先端医療の発展以上に多くの人々にとって重要な研究活動と思っております。自分も微力ながらCRSTの活動を通じて、これらの活動に関わっていただければと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

(2016年から不定期にCRST\*メンバーによるリレーエッセイをNewsLetterとしてお届けしています。次回の執筆者は、自治医科大学耳鼻咽喉科学講座教授 西野 宏先生の予定です。)

\*CRSTは、本学卒業医師の地域医療に根ざした研究や論文を支援するために、2010年7月に発足した「地域医療研究支援チーム」です。現在、168名の有志教員にご参加いただき、各専門分野における研究テーマのブラッシュアップに加え、一般的な論文作成支援にご協力いただいております。2013年4月に発足した「臨床研究支援センター」活動の一翼を担う組織として位置付けられています。

CRSTに参加し、研究支援活動を行っていただける方をひろく募集いたします。チームの活動は、主にメーリングリスト上での情報共有とディスカッションであり、会合等による時間制約はありません。チームメンバーの専門領域についてのご意見とご指導をお願いすることになります。参加登録や本企画へのご意見は、地域医療オープン・ラボ (内線 2338、openlabo@jichi.ac.jp) へご連絡下さい。

CRST ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/dscm/CRST.html>

### CRST メンバーリレーエッセイ

- No. 4 臨床の潤いとしての研究 (篠崎) 2017年10月 (Newsletter No. 125)
- No. 3 臨床研究雑感 (藤原) 2017年9月 (Newsletter No. 124)
- No. 2 地域臨床教育センター (森田) 2017年3月 (Newsletter No. 117)
- No. 1 学会散歩: 「この発表はなぜ分かりにくいのか?」 と考えてみる (松原)  
2017年1月 (Newsletter No. 114)

#### 地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先: 地域医療オープン・ラボ [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)

[発行]自治医科大学大学院医学研究科  
地域医療オープンラボ運営委員会  
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
TEL 0285-58-7477 / FAX 0285-44-3625 / e-mail [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)  
<https://grad.jichi.ac.jp/>